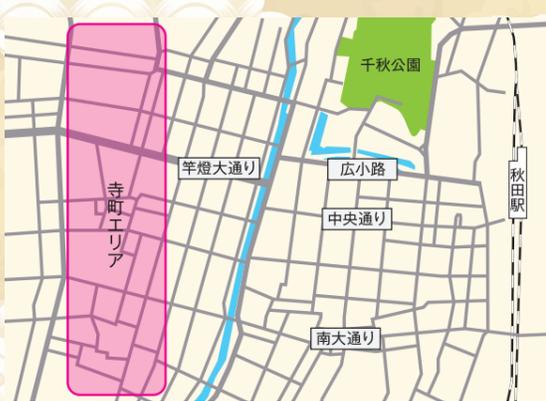


Visiting TEMPLES 秋田市 寺町 探訪マップ



寺町とは？

初代久保田(秋田)藩主佐竹義宣が、久保田城築城と同時に作ったまちづくりで生まれた「寺町」。「寺町」には、現在も約40の寺院が残っています。「寺町」に足を踏み入れると、そこに大通りの喧騒はなく、厳かな寺院群が姿を現します。歴史を感じに「寺町」をぜひ歩いてみてはいかがでしょうか。



寺町への主要アクセス



寺町探訪の注意！

寺院は観光用に常にか開かれてはおりません。見学やご朱印をご希望の方は、事前に電話でお問合せください。また、ほとんどの寺院に駐車場がございませんので、公共交通機関のご利用をお願いします。

発行：秋田商工会議所
秋田県秋田市旭北錦町1-47
☎ 018-866-6676
<http://www.akitacci.or.jp/>

寺町 探訪マップ

①～⑩の寺院を裏面で紹介しています
ご朱印 あり
※普傳寺：東北三十六不動尊霊場のご朱印
※大悲寺：秋田三十三観音霊場のご朱印

寺町の歴史

関ヶ原の合戦の2年後、1602年、佐竹義宣は常陸(茨城県)から秋田に国替となりました。義宣は最初、土崎にあった湊安東・秋田氏の湊城に入りましたが、翌年には久保田城の建設に着手しています。湊城の敷地が狭かったこと、その立地が軍事上有利な地形に恵まれていなかったことなどがその理由であると言われています。さらに義宣は久保田のまちづくりとして、城が築かれた神明山(現在の千秋公園)の南に、城に仕える侍たちが住む「内町」、そして旭川をはさんで、まちを活気づけた町人たちが住む「外町」、さらにその西側には端然と寺屋敷が並ぶ「寺町」を配しました。久保田のまちの形がほぼできあがったとされるのが1624～1643年。1663年の「外町屋敷間数絵図」(県立図書館蔵)を見ると寺町には40ほどの寺院があったようで、それらはおおむね3つの種類に分けられます。1つ目は、常陸から義宣を追うように移ってきた寺院。2つ目は、まちづくりのために土崎湊から呼ばれた町人と同様、土崎湊周辺(現在の土崎、寺内、飯島)から移った寺院。そして3つ目が、久保田のまちで開かれた寺院。寺院を外町の西側に並べたことには、戦の時の防衛体制、戦略的な要素も含まれていました。大きく丈夫な建物と広い敷地を備えた寺院は、敵を迎え撃つときの格好の待機場所となったでしょうし、攻め入る敵の「壁」となって、一時的にその足を止めることにもなります。そして寺院をすき間なく並べて配置することで、その壁をより強固なものにしたのでしょう。(出典：広報あきた2004年7月9日・11月12日号より)